

東京大学大学院 人文社会系研究科

平成23年度 次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

最終報告提出日

2011年12月22日

派遣生の基本情報

氏名：栗田知宏

所属先：社会学研究室（博士課程6年次）

派遣形態：個人

研究課題名

ブリティッシュ・エイジアン音楽産業における「エイジアン」概念をめぐる質的調査

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本状況

国名：イギリス

都市名：ロンドン、マンチェスター

研究機関名：マンチェスター大学人文学部（音楽・演劇研究室）

コンタクトをとった研究者名：ラジンダル・ダドゥラー博士

(2) 派遣期間

2011年9月2日から2011年12月2日まで 92日間

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

在英南アジア系移民のポピュラー音楽（ブリティッシュ・エイジアン音楽）の様々な実践を包括する「エイジアン」という音楽的カテゴリーが、「ブリティッシュ・エイジアン」というエスニック・マイノリティとしての集合的アイデンティティとの関わりのなかで、いかなる意味を持つ概念として用いられているかを考察するのが本研究の目的である。具体的な作業としては、夏の南アジア系野外フェスティバル「メーラー」の資料収集ならびに関係者へのインタビュー、さらにロンドン・メーラー（西ロンドンの **Gunnery Park** にて9月4日開催）での観察調査やインタビューを行う。また、2011年9月より1年間（東京大学文学部との交流協定に基づいて）留学するマンチェスター大学人文学部のラジンダル・ダドゥラー博士の指導の下、ブリティッシュ・エイジアン音楽業界関係者を対象としたインタビュー調査と博士論文の執筆を進める。

(2) 実際に達成された成果

9月4日のロンドン・メーラーには、博士論文で事例のひとつとして取り上げるインド系（パンジャービー）R&B歌手のジェイ・ショーンが出演し、同会場の BBC In Conversation With のテント内ではショーンの公開インタビューが行われた。現在アメリカを中心に活動する彼が在英エイジアンとしてのアイデンティティを表明する、非常に貴重なインタビューであった。日本移民学会の学会誌『移民研究年報』次号（第18号）に今年3月に投稿した論文「ブリティッシュ・エイジアン音楽とエイジアン・アイデンティティ——ジェイ・ショーンの音楽実践とその解釈を事例として」が、この時点で仮採用となっており、査読者からのコメントを踏まえたリライトをちょうど行う段階であった。そのため、この日のショーンのインタビューの内容を論文に組み込み、イギリスの新聞 *The Independent*（ウェブ版）におけるショーンの過去のインタビュー記事や BBC ホームページに掲載されたショーンのこれまでのアルバムレビューの内容も取り入れた、大幅な書き直し作業を行った。再査読の結果、正式に採用が決定し、2012年3月に刊行予定である。

また、10月1日にロンドンで催された Brit Asia TV Music Awards（在英エイジアンの若者向けテレビ局 Brit Asia TV の主催）にプレス関係者として参加することができた。在英エイジアン音楽業界においてパンジャービーのアーティスト（なかでもバングラ歌手）が占める割合の大きさを確認できる、非常に意義深いイベントであった。この授賞式に関しては、指導教員のダドゥラー博士からレポートの課題が出たため、後日提出した。このレポートの内容は、現在執筆中の博士論文にも組み込む予定である。

これらの他にも、エイジアン音楽関連のイベントに数多く足を運び、資料収集や関係者とのネットワーク構築に努めた。また、博士論文の内容に関連したダドゥラー博士からの課題（10月11日にマンチェスターで催されたエイジアンの音楽イベントのレポート、ポピュラー音楽研究におけるジャンルとエスニック・アイデンティティとの関係性をめぐる議論のレビュー）の執筆を行った。

(3) 今後の研究展望

マンチェスター大学には本プログラムの派遣期間終了後も引き続き2012年8月末まで在籍し、ダドゥラー博士の指導の下で調査と博士論文の執筆を進めていく。これまでの調査でエイジアン音楽業界やメディア関係者とのネットワークを大きく広げることができたので、これを今後のインタビュー調査に積極的に活かしたい。調査によって得られた質的データを元に、エイジアン音楽の生産／流通／消費の各局面に携わる人々の意識や販売・宣伝戦略がどのように相互作用することによって「エイジアン」という集合的な文化的アイデンティティが維持されているかを分析・考察することが、博士論文における中心的な作業になるだろう。